

前年度の概況

- 1 年度での入所 13世帯、退所11世帯あり、入所8世帯はDV、4世帯が若年母子世帯、外国籍2世帯、不登校の児童の世帯が1,知的障害児の世帯が1あった。退所6世帯は都営住宅、3世帯は帰宅、1世帯は母親の結婚による退所であった。
- 2 今年度入籍31世帯中、府中市からの受け入れが8世帯の他、保護実施機関は16市に及んだ。
- 3 2月21日に東京都指導検査が実施され、今後の施設運営に関して検査員の助言を受けた。
- 4 更なるサービスの向上に向け、第三者評価を4回目の受審(訪問日:2月22日福祉企画総合研究所)のほか、サービス自主評価も3児童施設共通で1月に実施した。
- 5 支援センターは「たっち」との連携を整備し、職員のスキルアップを目指し各種研修にも積極的に参加した。
- 6 今年度「オープンルーム」は28回実施し、毎回約50名以上の参加があり盛況だった。
- 7 子育て支援プログラムNP(ノーバディーズパーフェクト)プログラムは3回実施、行政・利用者より高い評価を受けている。
- 8 トワイルト事業は安定した利用数を維持し、ショート事業は利用理由が多様化している。
- 9 システムセキュリティのための新ソフト導入に伴い、改めてPC等環境整備を行った。

重点ポイント

- 1 **利用者が安全・安心に生活できる場の提供**
・防犯防災の徹底と利用者からの信頼を目指す
- 2 **府中市子ども家庭支援センター「たっち」との共働**
・先駆型支援センター「たっち」を踏まえた『しらとり』のあり方
- 3 **職員個々の健康管理の徹底**
・全スタッフが1年間健康で働けるよう目指す
- 4 **相互に信頼できる職員間の連携強化**
・シフト勤務の中で、正確な職員間の伝達に留意する
- 5 **スキルアップへの各種研修の実施と参加**
・OJTをはじめ、内外研修の参加
- 6 **現状における「あるべき施設」の検討**
・時代に見合ったあるべき『施設』を歴史と現実を踏まえ再考する。
- 7 **個別支援計画に沿った利用者への自立支援**
・記録の正確な記述と定期的な振り返りによる支援方針の見直し

全体を通しての考え方

法人の理念である「私たちは家族を支援します。」を再認識し、子どもたちの福祉の向上に取り組む。
地域の方々に感謝の気持ちを持ち、『子育て支援』の核拠点としての役割を担うと同時に、『母子生活支援施設』として利用者に深い共感を持ち、安全安心を常に心がけ、安心して暮らせる施設を目指す。

与件課題

- 1 利用者が日々安心・安全に生活および利用できる建物管理と維持
・「子ども」が安心して、健やかに育つ環境を最重視
- 2 東京都の動き-要保護児童対策と虐待防止対策の推進
・心理療法担当職員の常勤化等
- 3 白鳥寮における若年・外国籍・精神的課題・DVといった入所世帯への対応強化
- 4 府中市における要保護児童対策への対応
・関係機関との連携強化
- 5 大規模修繕に備える体制整備
・中長期経費計画の策定
- 6 支援システムの安定及び積極的活用による、記録の内容の整備・見直し

運営管理

- ① 利用者、職員と互いに協力し、毎月の訓練を重ねながら防災意識を高く持ち安全な施設の維持に努める。
- ② 警察の防犯指導に沿った来所者の把握、部外者の進入防止に努め、利用者、子どもに安全な生活環境を提供する。
- ③ 安全衛生面に焦点を当てた施設内巡回を定期的の実施し、環境整備を速やかに行い清潔な生活空間を保つ。
- ④ 職員の健康管理および心のケアに配慮する。(定期面談の実施)
- ⑤ コスト管理の徹底により、効率よい運営を実施する。
- ⑥ 第三者評価および自主サービス評価を継続し、利用者視点でのサービスを推進する。
- ⑦ 各種研修に参加し、スキルを高める。(外部研修・母子3施設合同研修11月・施設内研修)
- ⑧ 整備したマニュアルを稼働し、検証し更なる活用に向け改善する
- ⑨ 適切な施設運営を行っていくために、毎月1回施設長、各部署の代表を中心とする運営会議を実施する。

母子生活支援施設

母親に対する支援

- ① 利用者が自立に向けて、個々の目標を達成できるように支援する-定期面接(年2回)の実施
- ② 心理職(臨床心理士他)との連携による、心のケアに基づく利用者支援をする
- ③ 就業支援-ハローワークおよびチラシ情報の提供や技能習得を支援する
- ④ 若年層の利用者への自立・子育て支援をする

学童に対する支援

- ① 子どもたちが安心して日常生活を営めるように、施設での集団活動で仲間意識を育みながら、支援する。
- ② 課題等のある児童に対しては個別支援を行い、子どもに応じた関わりを行なう。必要に応じて心理職、学校、関係機関と連携し、支援する。
- ③ 子どもたちが、遊びや行事活動を通じて、豊かな感情を養うように支援する。
- ④ 様々な場面で子どもたちに発言の機会を設け、自主性を育む。

保育に対する支援

- ① 母親の就労と子育て支援のために、安全に十分配慮しながら寮内保育を行う
- ② 乳幼児の保育に相応しい環境設定を行い、月齢に合った保育内容計画、実行していく
- ③ 保育の専門性を生かしたオープンルームを通じての地域子育て支援を実践する

府中市委託事業

子ども家庭支援センター

- 府中市子ども家庭支援センター「たっち」と連携・協働し、サービス提供拠点としての役割を踏まえ、地域における『子育て力』形成支援を推進する。
- ① 利用者への的確な対応ができるよう たっちとのケース会議・研修の共有を図る
 - ② オープンルームの開催(年28回 うちあおぞら7回-黒鐘公園および武蔵台文化センター広場(仮称)ミニルームの開催(年11回 新規事業))
 - ③ 母親支援プログラムNP(Nobody's Perfect 5月~7月・9月~11月出張NPの実施・1月~3月)
 - ④ 府中市連動での被虐待者のグループ支援事業の開催(NP方式で年間プログラム化)
 - ⑤ サービス事業担当職員のスキルアップに向け、合同でのケース検討会を実施する
 - ⑥ 地域子育て支援拠点・サービスの情報整理

サービス事業

- ① ニーズにあったショートステイの受け入れ対応の確立
- ② トワイルト利用保護者への季刊通信発行(おかえり:年4回)
- ③ 教職免許法実習の受け入れ継続(ヒトの活用)
- ④ 多様化するサービス受け入れ理由に対応すべく府中市との協議を継続的に実施する

病後児保育

- ① 登録時の面談および申し込み電話時でのコミュニケーションを重視する(受け入れ時のトラブル防止)
- ② 関連施設の紹介を的確にできるようにする
- ③ 今後の事業体制への府中市と協議する(H20年度委託見直し)